

肥厚の改善が認められ、効果ありと判定した。経過を追って効果が増すと報告があり、本2例も今後効果を期待したい。また更に症例を加えて、治療の開始時期、使用する放射線およびステロイドの量などを検討していきたいと思う。

2) Penderd 症候群の1姉妹例

羽入 修・中川 理
山崎 雅俊・谷 長行
伊藤 正毅・柴田 昭 (新潟大学第一内科)
漆山 勝 (佐渡総合病院内科)

Pendred 症候群は先天性感音性難聴と先天性ヨード有機化障害に基づく甲状腺腫を合併する症候群で、1896年 Pendred が初めて報告して以来数々の報告がなされている。症例は17歳と15歳の姉妹で2人とも幼児期より感音性難聴を認めている。両親は血族結婚ではない。今年に入り妹の甲状腺腫が急速に腫大したため精査目的に当科入院となった。Perchlorate 試験陽性でヨード有機化障害を認め Pendred 症候群と診断した。甲状腺機能、TRH 試験とも正常で、甲状腺腫の縮小効果を期待して T₄ 製剤投与中である。今回 Pendred 症候群の姉妹例を経験したので、若干の遺伝学的考察を加えて報告する。

3) 身体的特徴のない成人型偽性副甲状腺機能低下症Ⅱ型の1例

太田 大介・筒井 一哉 (県立がんセンター)
佐藤 幸示・原山 尋実 (新潟病院内科)
神経内科

身体的特徴を伴わない偽性副甲状腺機能低下症Ⅱ型の症例を経験したので報告する。

症例は34歳女性。31歳頃より時々、四肢、顔面のしびれや振戦を自覚するようになり特に冬季に多く認められた。その後も同様の症状が続き、これらの症状を主訴として当科も受診した。当科受診時、低 Ca 血症にもかかわらず血中副甲状腺ホルモン高値であったため、偽性副甲状腺機能亢進症を疑い Ellsworth-Howard 試験を施行した。その結果、尿中 cAMP 反応陽性、尿中 P 反応陰性であった。また、腎原性 cAMP 3.89 nmol/dl と高値であった。身体的特徴をともしなわなくとも正確に施行された Ellsworth-Howard 試験がその条件を満たせば診断して良いことになっており、本例は偽性副甲状腺機能低下症Ⅱ型と診断した。

4) 健常男性における L-arginine 負荷にたいする血清 Ca²⁺ 依存性一酸化窒素合成酵素の反応

山崎 雅俊・伊藤 正毅
他・内分泌代謝班一同 (新潟大学第一内科)

【目的】最近我々は、各種疾患や病態への関与が示唆されている一酸化窒素 (NO) を生体内で生成する Ca²⁺ 依存性一酸化窒素合成酵素 (NOS) の peptidebased radioimmunoassay (RIA) を開発し、人血中にかかる酸素の免疫活性が存在することを明らかにした。そこで、NO の合成前駆体である L-arginine 負荷にたいする血中 Ca²⁺ 依存性 NOS 免疫活性の濃度変化を検討した。【方法】健常男性9名に対して体重 1 kg 当り 0.5 g の内分泌検査用 L-arginine を30分間静脈点滴し、負荷前、負荷後30, 60, 120, 180分に静脈採血し、血清を開発した RIA 用検体に供した。【結果】全例の比較では、負荷前の NOS 免疫活性の値 (mean±SE) は 148.8±7.89 μg/L であるのに対して、180分後の値は 149.5±10.3 μg/L であり、有意な変化は認められなかったが、個々の比較では、負荷により有意に上昇する群と低下する群が存在することが判明した。【総括】現時点で L-arginine 負荷に対する反応に相違が健常者間に認められることが臨床的に意義があるか不明であるが、興味ある観察と思われた。

5) 食塩負荷による食後過血糖の増強 —胃排出能からみた検討—

中村 宏志・他
内分泌班 (新潟大学第一内科)

【目的】最近、炭水化物の摂取による食後過血糖が食塩の同時摂取により増強されるという報告がなされているが、その機序は明らかになっていない。今回、我々は、食塩の摂取が胃排出能に影響を及ぼすかどうかについて検討した。【対象および方法】対象は、健常人7名。早朝空腹時に流動試験食 300 ml を飲用させ、超音波法により胃排出時間を求めた。また、試験食摂取前と摂取後30分、60分、90分、120分、180分の血糖値、IRI、ガストリン、モチリンも測定した。さらに別の日に、食塩 5 g を加えた試験食を用いて同じ検査を施行した。【結果】食塩添加食の方が、食塩非添加食に比して、負荷30～120分後において、血糖値の増加量が有意に高値であった。食塩添加食が食塩非添加食に比して、有意に胃排出時間 (半減期) が短縮していた。ガストリン、モチリンの負荷前後での変化では、両者とも、食塩添加食と食塩